

# マス類の県内需給状況調査

とりまとめ：名倉 盾

本調査は全国養鱒技術協議会提出資料として、県内の養鱒関係者に種苗生産状況を聞き取り調査し、取りまとめたものである。

## 1 今回調査した養鱒経営体数

今回調査した経営体は40経営体であった（うち公営2，民営38）。

## 2 県内の生産量

平成21年度の年間種卵生産量（表1）、年間普通種苗生産量（表2）、河川・湖沼放流用種苗出荷量（表3）、埋没放流用出荷卵数（表4）は次の表に示すとおりであった。

表1 年間種卵生産量

単位(万粒)

魚種名	普通卵				計	バイテク卵		計
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月		全雌2倍体	全雌3倍体	
ニジマス		335	519	427.0	1,281		11	11
ヤマメ				135.0	135			
イワナ				330.0	330			
アマゴ				166.0	166			
ブラウントラウト				4.0	4.0			
カットスロート				3.0	3.0			
オシヨロコマ				2.0	2.0			

表2 年間普通種苗生産量

単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	1,062.2
ヤマメ	162.3
イワナ	121.0
アマゴ	87.3
ブラウントラウト	3.4

表3 河川・湖沼放流用種苗出荷数

単位(万尾)

魚種名	年間放流数
ニジマス	13.4
ヤマメ	37.2
イワナ	21.6
アマゴ	57.8
ヒメマス	35.0

表4 埋没放流用出荷卵数

単位(万粒)

魚種名	年間放流数
ヤマメ	8
イワナ	27

### 3 魚種別生産経営体数

魚種別養殖経営体数と種苗生産経営体数は表5に示すとおりであった。

表5 魚種別養殖経営体数と種卵生産経営体数

魚種名	養殖経営体数	種卵生産経営体数 (%)
ニジマス	20	8 (40.0)
ヤマメ	17	7 (41.2)
イワナ	15	7 (46.7)
アマゴ	11	6 (54.5)
ブラウントラウト	2	1 (50.0)
カワマス	2	2 (100.0)
ヒメマス	3	1 (33.3)
サクラマス	2	1 (50.0)

### 4 種卵生産量と種苗生産量の経年変化

#### (ニジマス)

H22年の種卵生産量は前年比260万粒(25.5%)増の1,281万粒、種苗生産量は前年比511.8万尾(32.5%)減の1,062.2万尾であった。

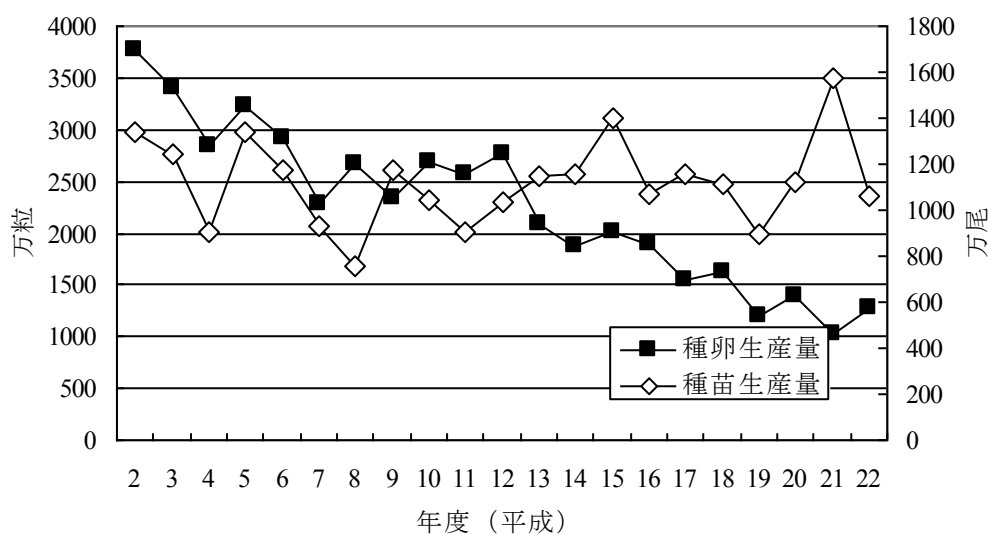


図1 ニジマスの種卵・種苗生産量の経年変化

#### (ヤマメ)

H22年の種卵生産量は前年比51.5万粒(61.7%)増の135万粒、種苗生産量は前年比31.4万尾(24%)増の162.3万尾であった。

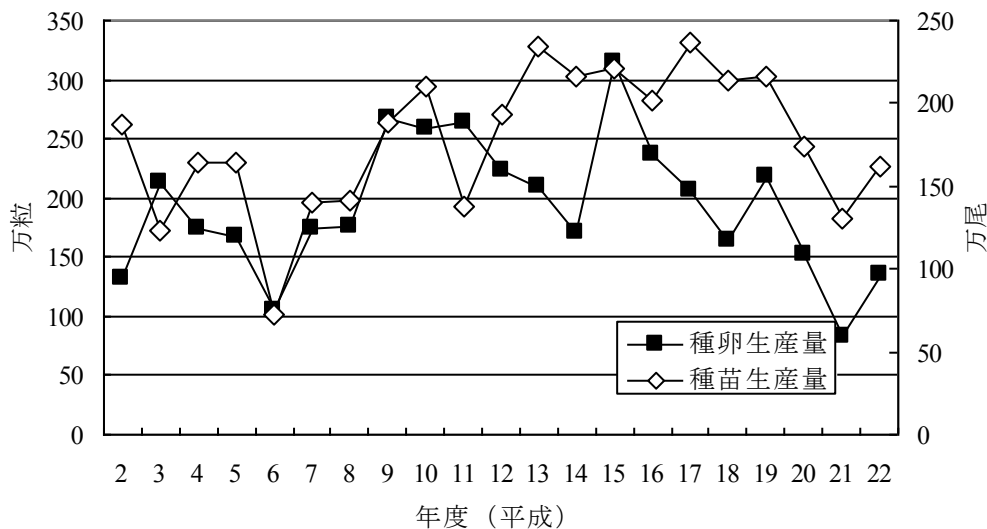


図2 ヤマメの種卵・種苗生産量の経年変化

**(アマゴ)**

H22年の種卵生産量は前年比122.5万粒(281.6%)増の166万粒、種苗生産量は前年比29.5万尾(51%)増の87.3万尾であった。

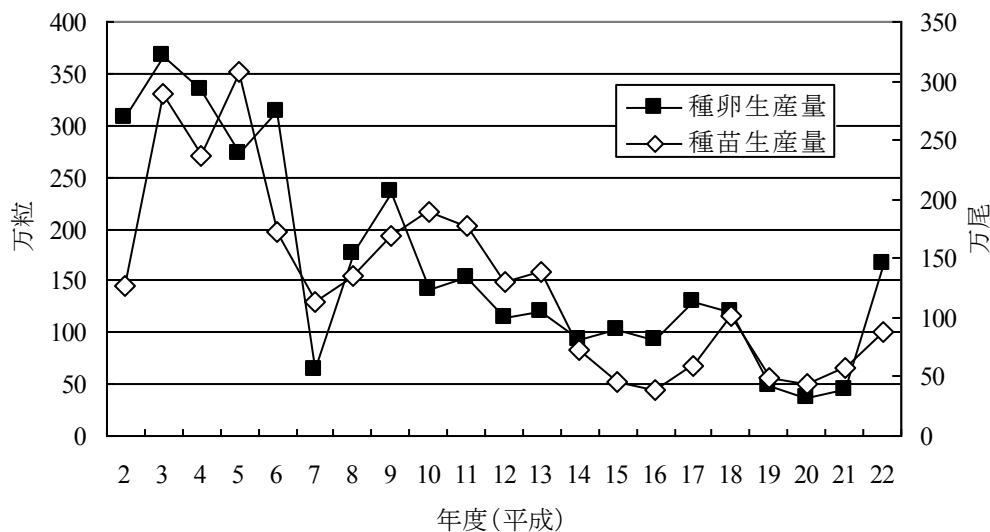


図3 アマゴの種卵・種苗生産量の経年変化

**(イワナ)**

H22年の種卵生産量は前年比157万粒(90.8%)増の330万粒、種苗生産量は前年比16.1万尾(15.3%)増の121万尾であった。

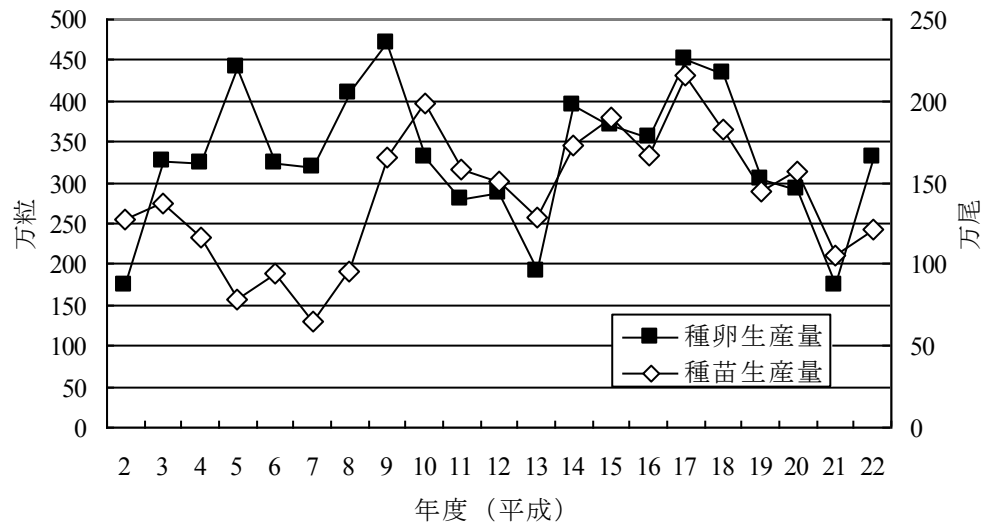


図4 イワナの種卵・種苗生産量の経年変化